

# 特集

〈事例〉

## 家具のリサイクルや清掃活動などで、地域の美化に貢献

公益社団法人  
仙台市シルバー人材センター

(宮城県)

仙台市SCは、市民から持ち込まれた不用になった家具や家電などを修繕し、希望者に提供する仙台市のリサイクル事業の一翼を担っている。市内2か所のリサイクルプラザで会員が修繕作業や受け付け業務を担当し、リサイクル品の再生やごみの減量に貢献。また、一人で行う清掃活動「シルバー風の「仙台まち美化サポーター」、と名付けた取り組みを継続し、環境美化活動で地域を支えている。

仙台市では、持続可能な資源循環都市を目指し、ごみの発生を抑

制する「リデュース」を中心に、繰り返し使う「リユース」、資源に再生する「リサイクル」に取り組む「3R」を推進している。

廃棄物の発生防止、削減、再生利用および再利用により廃棄物の発生を大幅に削減することは、SDGsの持続可能な開発目標の「12 つくる責任 つかう責任」に含まれる取り組みだ。

市で実施している取り組みの一つに、家庭で不用となった家具や衣類、電気製品など、まだ使えるものを市民から無料で引き取り、清掃や補修をして、欲しい人に提供し有効活用してもらおうリサイク

ル事業がある。

仙台市SCでは、この事業の一部を平成十年から受託。市のリサイクルプラザで、会員がそれまでに培った能力や経験を発揮して作業に当たっている。

### 家具などを再生する作業と受け付け業務を担う

事業課業務係の濱町悠主事は、「同センターでは、市で推進するリサイクル事業の一端を担う就業の機会を得て、令和五年で二十五年になります。市内2か所のリサイクルプラザで、会員が家具などを再生する作業と受け付け業務を担っています」と、就業内容を説明する。

3Rを進める施設として、市では2か所のリサイクルプラザを設置。その両方で、会員がシフトを組んで就業している。

詳細は以下の通り。

●葛岡リサイクルプラザ(青葉区) 修繕担当が五人、受け付け業務担当が三人

●今泉リサイクルプラザ(若林区) 修繕担当が四人、受け付け業務担当が三人

### 知恵と技術を発揮してできるだけ新品に近づける

今回取材した今泉リサイクルプラザでは、市民から持ち込まれた家具・電気製品などを、会員が丁寧に修繕した上で展示している。



仙台市SCは、市が進める3Rを実践するリサイクルプラザで、市民から持ち込まれた不用になった家具や家電などの修繕作業と受け付け業務を担っている。今泉リサイクルプラザの展示室(写真上)には、毎月40点の家具・家電などが並ぶ。写真下は、今泉リサイクルプラザ内にあるリサイクル工房で修繕担当として就業する、会員の久米順市さん



展示品が欲しい人は、十八歳以上の仙台市民に限り、決められた期間中に一人一点申し込むことができる。申し込み多数の場合は、毎月第四火曜日に抽選を実施。当選者は、届いたはがきと引き換えに、展示品を持ち帰ることができる。衣類、バッグ類、本のコーナーもあり、衣類は一人一日三点までお

よび一週間で十点まで、本は一人三冊まで。欲しいものがあれば、受付の書類に必要事項を記入して持ち帰ることができる。今泉リサイクルプラザのリサイクル工房では、修繕担当が一人、三人、受け付け業務担当が一人、常時就業(九時〜十六時三十分)している。

展示室に入ると、本棚や学習机、タンスなどの家具と小型の電気製品、健康運動器具などが並んでおり、どれも状態が良く不用品だったとは思えないものばかりだ。展示品は毎月総入れ替えされるほどの盛況ぶりだ。土・日曜日には六十〜八十人が来場するという。「毎月、四十点が展示されます」

と、この日、リサイクル工房で就業していた会員の久米順市さん。「私の担当は、主に家具などの掃除です。不用になったとはいえ、まだ使えるものなので、気持ちよく使ってもらえるように汚れやほこりを取り除いたり、壊れた部品を取り換えたりします。取っ手やネジなども不用品とされた家具の部品を保管しておいて有効活用します」と話す。工房の壁際には、さまざまな部品が種類別に収納されていた。

この日、修繕担当の就業は久米さん一人だったが、日によって二人、展示品入れ替え時には三人で対応し、一人が月十日ほど就業している。電気関係に強い人、家具の修繕に自信がある人など、得意分野で力を発揮。皆で知恵を出し合って作業することもあるという。

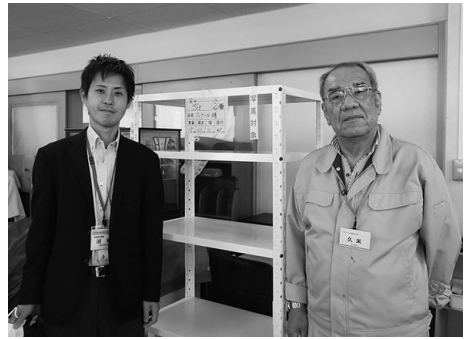
久米さんは、この仕事に就いて三年目。長年、機械を製造する仕事に携わってきたこともあり、ものづくりが好きだという。その技

術や経験を、工房で細かい作業や安全性能の確認などに生かすことができ、市のリサイクル事業に役立っていることにやりがいを感じている。「できるだけ新品に近づけるように、諦めず、手を抜かないことをモットーに作業をしています」と笑顔を見せた。

取材時は、ベビーカーの修繕をしており、外せる部分は全て外して点検する。壊れている箇所はなかったたので、磨いたり、カバーを洗ったりすることで新品のようによみがえった。

## 再生品の橋渡し役として

展示室の受付窓口を担当していたのは、令和四年に会員になった高橋恵子さん。もともとリサイクルプラザを利用していたことや前職で窓口業務の経験があったことから、ここで就業することになった。役割は、展示品の申し込み対応、整理整頓など多岐にわたる。「申し込み書類に記入漏れがな



写真上は、事業課業務係の濱町悠主事（左）と会員の久米順市さん。写真下は、今泉リサイクルプラザの展示室で受け付け業務を担当する会員の高橋恵子さん



いか、しっかりと確認することを心掛けています。窓口業務の経験はありましたが、お客さんと対話することはありませんでした。ここでは衣類を選んでいた人から私に似合うかしら」と話し掛けられることもあり、初めは戸惑いでしたが、最近は会話できるようになって、ようやく慣れてきたという感じです」と高橋さん。

市民としてリサイクルプラザは知っていたが、「リサイクル工房で家具などを丹念に修繕している作業を目にして、ここまでやってい

るのかと感心しました。お客さまは、展示品を楽しそうに見ている人もいますし、欲しかった家具の抽選に当たって、当選はがきを持って報告してくれる人もいて、私もうれしくなります」と、にこやかに話してくれた。

濱町主事は「この就業は人気があります。特に修繕は技術的な仕事をしてきた会員にとっては経験を生かせますし、受け付け業務も含め、前職などを踏まえて適した会員に声を掛けています。長年継続できているのは、就業実績が評

価されているからだと思います」と会員の仕事を誇った。

## コロナ禍でも一人でもできる ごみ拾いの活動を継続

SDGsの目標「11 住み続けられるまちづくりを」等につながる活動として、清掃ボランティアがある。コロナ禍でやむなく中止する状況が続いたが、令和四年十月七日には、泉区にあるセンターの北部支部で三年ぶりに活動を再開し、仙台市泉区役所敷地内の除草・清掃による奉仕活動を行った。一方、センターの地域班の一つである第一地域班では、一人で行う清掃活動として「シルバー風の「仙台まち美化サポーター」活動を展開している。

「仙台まち美化サポーター」とは、ごみのない快適なまちづくりを進めるため、道路や公園などで定期的・継続的にボランティアによる清掃活動を行う団体等を市が募集するプログラムである。



令和四年度、センターの北部支部では  
仙台市泉区役所敷地内の除草・清掃に  
よる奉仕活動を三年ぶりに行った



その活動を「シルバー風」にすることで、各メンバーが体調、病院通い、天気などの都合に合わせて、自分のできる時に、できる所を、できる分だけ行うことを前提にしている。活動したら、活動日、時間、拾ったごみの量などをリーダーに報告し、リーダーは内容を取りまとめてメンバーとセンターに提出・共有するという、単独で

行うチーム（地域班）活動である。第一地域班の橋本昭正班長を含む十三人がメンバーとなり、コロナ禍でも各人が活動を継続してきた。平成三十年十一月のチーム結成から、四十八か月で十三人が五百四十回のごみ拾いを行った。センターには経過のほか、「ごみ拾い活動は心と体に良いだけでなく、通行車両や通行人、鳥の鳴き声、草木の花など、地面のほかに前後・左右・上下にも注意を払いますので感覚の鍛練にもなり、さらには世界的に取り組まれているSDGsの活動にもなるので、環境維持にも貢献できます」といった感想が報告された。

センターでは、班長会で活動の発表機会を設けて、普及促進を図っている。

**SDGs目標の達成に貢献できる仕事を提案したい**

仙台市は二代続けて市長が女性で、センターも理事長をはじめ理

事十五人のうち四人が女性である。センターでは、ここ数年、女性会員拡大に力を入れており、令和三年度は、前年度に比べて女性会員が四十三人増加した。女性会員向けの就業も増え、今年度はさらにそれを上回る勢いとなっている。

「女性向けということではないのですが、依頼された仕事を丸ごと受けることが無理な場合でも、一部を切り取って、例えば、封入作業だけなら受けられますといった提案をして、女性も就業しやすい仕事が増え、濱町主事は説明する。また、コロナ禍で多忙になっている保健所の業務を補完する仕事など、市から依頼されるケースも増えているという。

濱町主事は「いずれの仕事も会員の働きぶりが評価され、次の依頼につながっています。リサイクルプラザの就業も市の事業の一部としてSDGsに貢献しています。今後は、センターからSDGsに

貢献できる仕事の提案にも取り組んでいきたい」と意気込む。

喫緊の課題として、空き家管理についてセンターだからこそ行えることを検討し、提案していきたいと展望を語った。

（増山美智子）

事業運営状況 (平成29年度～令和3年度)

年度	会員数			粗入会率	就業実人員 (延人員)	就業率	受注件数	契約金額	公民比
	男	女	計						
平成29	1,922	737	2,659	0.9	2,048 (237,383)	77.0	7,538	1,124,224	6.0/94.0
30	1,975	757	2,732	0.9	2,108 (240,250)	77.2	7,533	1,150,923	5.8/94.2
令和元	1,999	794	2,793	0.9	2,126 (241,473)	76.1	7,606	1,166,371	5.3/94.7
2	1,924	771	2,695	0.8	2,063 (223,803)	76.5	6,628	1,099,904	6.4/93.6
3	1,891	814	2,705	0.8	2,044 (221,098)	75.6	6,857	1,074,690	6.1/93.9

※受注件数、就業実人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値  
 ※就業実人員は平成29年度まで請負・委任、平成30年度以降は請負・委任と労働者派遣事業が対象  
 ※就業実人員は令和2年度から労働者派遣事業の教育訓練受講を含む